

長門の話題

Topics



ながと子どもの集い

子どもの人権を守ろう

11月3日(土)、ルネッサながとで「ながと子どもの集い」が開催されました。これは近年、地域で子育て支援を行うことが求められている中で、子育て支援と子どもの人権が尊重された社会を実現するために開催されたものです。

アリーナでは、玉入れやかけっこが行われ、子どもたち

は元気に駆け回りました。劇場では、テレビでおなじみの住田裕子弁護士講演が行われました。テレビ出演の裏話や自身のこれまでの経験を話し、子どもの犯罪がなぜ起こるのか、なぜ虐待が起るのか、分かりやすく話し、来場者はうなずきながら聞いていました。



▲住田弁護士の講演に、劇場はほぼ満員

▼元気いっぱいアリーナを駆ける



▲矢崎節夫金子みすゞ記念館館長らによって除幕された

▼製作にあたったみすゞ燦参SUN実行委員会のメンバー



仙崎に新たなみすゞさんのモザイク画

長門の思い出の場所に

11月8日(木)、仙崎の青海島観光ホテル横壁面に新たな金子みすゞのモザイクアートが完成しました。

これは、みすゞ燦参SUN実行委員会が「みすゞモザイクプロジェクト2012」として2万ピースを使った巨大モザイク画を完成させたもので、今回は見る方向によって

絵の変化が楽しめるものになりました。小崎実行委員長は、「ここを通られる人に写真を撮ってもらって、長門の思い出の場所にしてほしい」と述べました。

除幕後、さっそく観光客が、モザイクアートを見る向きによって絵柄が違うことに気づき、写真に収めていました。



▲スライドを使い分かりやすく説明する中山氏

11月10日(土)、長門市中央公民館で「長門市認知症市民公開講座」が開かれ、市民など約200人が参加しました。

この日の講師は、山口県立こころの医療センターの精神科部長で医師の中山寛人氏で、「認知症について私たちができること」と題し講演が

行われました。

中山氏は、認知症のメカニズムやその症状、気づきのポイント、認知症ケア、認知症の介護を行う人へのケア、健康維持のための様々な工夫などについてスライドを使いながら話し、参加者はうなずきながら聞き入っていました。

10月28日(日)、第14回香月泰男ジュニア大賞絵画展の表彰式が香月泰男美術館で行われました。「好きな人を描こう」というテーマの絵画展には、全国から397点の応募があり、審査員長の竹内浩一さんは「一人ひとりの思いが表現され、楽しかった」と述べました。

▼大賞には通小学校2年の花川空雅くん



▲日韓の高校生が交流を深めた

10月30日(火)、韓国全羅南道の中馬高校2年生30人が大津・大津緑洋高校を訪問し、授業等を通じて交流を深めました。これは昨年に引き続き2回目の実施となり、今年6月には大津・大津緑洋高校から23人が中馬高校を訪問、ホームステイをしています。

1年生の交流授業では、日本のマンガや食べ物紹介、折り紙などを実際に中馬高校の生徒に体験してもらいました。中馬高校の生徒は、ハンダルの説明をしていました。

その後、全校での交流集会が行われ、1泊のホームステイも実施されました。

11月3日(土)、長門市立図書館で「第8回図書館まつり」が開催されました。人気の古本市は本を探しに来た人で賑わいました。また和太鼓グループ「俄」が演奏を行いました。

館内では、読み聞かせや紙芝居などが行われ、多くの親子が来場しました。

▼紙芝居は今も昔も大人気



お互いの国の文化を学ぶ

韓国の高校生が大津・大津緑洋高校を訪問

第8回図書館まつり

文化の日、本に親しむ

認知症を正しく理解する

長門市認知症市民公開講座

個性豊かな絵画が並ぶ

香月泰男ジュニア大賞絵画展

ながと成長戦略検討会議、始動

長門を成長させるために

油谷中央公民館が優良公民館表彰

地域の絆で子どもを育てる



▲委員を前にあいさつを述べる大西市長

10月21日(日)、第1回ながと成長戦略検討会議が市役所で開催されました。

ながと成長戦略検討会議は、長門市の基幹産業である農林水産業、観光業が低迷している状況を打破するために設置され、市外の有識者や地元オプザーバー、市担当課で

構成されています。この会議は、今年度から3年間設置され、地域産品のブランド化や流通、商品開発、観光事業などについて話し合わせ今後の事業展開を図っていきます。1回目となったこの日の会議では、厳しい意見が次々と出されました。

11月14日(水)、第65回優良公民館表彰を受けた油谷中央公民館の館長や同館運営協議会の会員らが市長室を訪れ、受賞報告をしました。



長門市長特別表彰 優勝でふるさとに貢献

10月28日(日)、長門市長特別表彰がながとふるさとまつり会場で行われました。

これは、スポーツ、芸術及び文化等において市民に明るい希望と活力を与え本市の名声を高めることに顕著な功績があったものに対して表彰を行うものです。

今回表彰を受けたのは、ぎふ清流国体の高校野球軟式の部で優勝した大津・大津緑洋高校軟式野球部の部長、監督、選手ら19人です。

賞状を手に永田監督は「不自由なく練習や試合ができたのは皆さまの支えのおかげでした」と感謝を述べました。



東日本大震災被災地への支援を続けよう！

東北地方太平洋沖地震に係る

被災者支援長門市市民会議から

主な支援活動の状況

■募金(10月31日現在)

◆日本赤十字社山口県支部

長門市地区(市福祉課)

20,758,695円

◆山口県共同募金会長門支

会(市社会福祉協議会)

5,237,381円

日本赤十字社、共同募金会とも、募金期間が、平成25年3月31日までとなっています。現地ではこれから寒い時期になり、支援が必要です。引き続き温かいご支援をお願いいたします

市民会議事務局
福祉課福祉係

Tel 23・1245



平成 10 年 3 月 11 日生 / 14 歳 / 菱海中学校 3 年

長

門の

People

どんなときも笑顔で

見ている人を元気に

油谷こどもミュージカル

榎垣七菜子さん

ちょっと
小耳に

『油谷こどもミュージカル』はラポールゆや開館5周年記念事業として企画されたものです。現在団員は42人。団員はもちろん、衣装や大道具の作成など全て油谷地区を中心とした市内のボランティアスタッフが構成されるミュージカルです。

今月16日(日)には、ラポールゆやで油谷こどもミュージカル第11回定期公演「不思議な夜がやって来た」が開催されます。

主人公を演じる榎垣七菜子さんは、間近に迫った公演に向けて日々稽古に励んでいます。

楽しくてしようがない

「歌ったり踊ったり、自分ではない違う誰かを演じるのがとても楽しい。」と榎垣さんはミュージカルの魅力をうれしそうに語りました。

第2回定期公演。両親に連れられて初めて見たミュージカル。「いいな。みんなと一緒にこの舞台に立ってみたいな」と思い、小学校4年生のときに入団しました。

入団して6年。今では最上級生となり団員を引っ張っていく立場となりました。

勉強や部活動との両立

中学生になり稽古との両立が難しくなってきましたが、やるべきことがたくさんあるからこそ集中して何事にも全力で取り組みました。大事なリハーサルや稽古が剣道部の試合と重なることが度々ありました。しかし、試合に出場できなかった自分を部員は快く送り出してくれました。「続けて来れたのは部員たちのおかげ」と感謝を口にしました。

このミュージカルが好き

どんなに下手でも、どんなに失敗しても笑顔で演じる。それが油谷こどもミュージカル結成当初からの伝統。公演を重ねるたび、団員全員が精神的に強くなり、歌や踊り、演技力を向上させてきました。今回の舞台でも団員が一つとなり、来場者一人ひとりに笑顔と元気を届けます。



▲ふれあいふるさとまつり in ゆやの舞台上で披露